

新本庁舎の安全性などに関する一般質問 質疑応答のポイント

市民の皆様から寄せられた不安や疑問に対し、市の考え方をわかりやすくまとめました。

1 耐震・免震構造について 大地震でも庁舎機能を維持し、災害対応ができるよう「免震構造」を採用

Q なぜ耐震構造ではなく免震構造を採用したの？

A 地震の揺れを大きく減らし、家具の転倒や人的被害を防ぎ、災害時にも迅速に業務を継続できるためです。

Q 建設費や補修費はどうなるの？

A 上部構造の工夫や免震装置の台数を通常の半分程度にすることで、耐震構造より約1,000万円の縮減が可能です。大地震後の補修費も、耐震構造（約6億円）に比べ、免震構造は0～5%（最大約2億円）と少なくとも見込まれます。

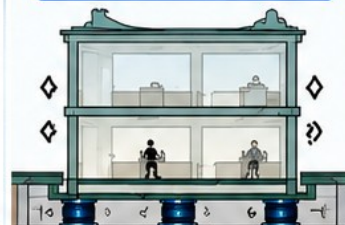
耐震構造と免震構造の違い（イメージ）

耐震構造（揺れが大きい）



- ・建物は倒壊しにくい揺れが大きい
- ・家具の転倒の恐れ
- ・業務継続が難しい

免震構造（揺れが小さい）



- ・揺れが小さく、家具の転倒が少ない
- ・災害時も庁舎機能を維持しやすい
- ・補修費も少ない

浸水時の安全性は？

Q 台風や豪雨で浸水した場合、建物が浮いたり傾いたりしないの？

A 浸水時の浮力は1㎡あたり約5トンに対し、建物重量は約20トン/㎡のため、浮き上がりや傾きの心配はありません。

Q 免震装置が浸水した場合の耐久性や点検・修理費は？

A ・ゴムや金属で構成され、60年以上の耐久性を確認しています。
・浸水後は応急点検（約40万円）を行い、必要に応じて修理・交換します。
・オイルダンパーは密閉構造で水が入りません。

地盤改良と基礎の構造（イメージ）



Q 地盤改良の内容は？地震に強い？

A 地質調査で深さ約8mに安定した地盤を確認。その上に約2mの地盤改良（セメントと土を混合）を約880か所行い、強固な地盤をつくります。東日本大震災でも同工法は被害が少なく、耐久性は十分と考えています。

Q 温泉などの影響で腐食しないの？

A 旧診療所の既存杭を調査した結果、腐食の影響は確認されませんでした。地盤改良部も同様の条件下のため、土中の成分による腐食の影響は受けないと考えています。

2 吹き抜け構造について 明るく開放的で、にぎわいのある庁舎にするための設計

吹き抜けの断面イメージ（エスカレーターはありません）



Q 転落防止や自殺防止の対策は？

A 吹き抜け周りの柵を高さ120cmで計画し、監視カメラで常駐監視して、けがや転落防止に努めます。

Q 物を投げたり落下物への対策は？

A 監視カメラで常駐監視し、注意の掲示などで防止を図ります。

Q 市民ホールのイベントによる騒音は？

A 音響機器の音量制限や利用条件を設け、1階の窓口業務に影響が出ないように配慮します。

Q 火災時の煙の広がりは大丈夫？

A 吹き抜け周りに防火シャッターを設置し、火災時に自動で閉まります。

【作動時間】
煙を感知してから
約1分で完全に閉まります。



手動でも閉めることができ、緊急時に使用可能です。2月6日に大匠認定を取得し、連動安全検証も完了しています。

Q 冬の冷気対策や光熱費は？

A 高断熱の壁・窓、高効率空調機器、集中管理システムにより、エネルギー使用量を約52%削減する計画です。保温効果が高く、冬でも快適な施設を目指します。

Q 雨漏りはしないの？

A 吹き抜け上部の屋根は、一般的な鉄骨造や鉄筋コンクリート造と同じ構造です。経年劣化などの要因により雨漏りが発生しないよう、適切に維持管理します。

3 ガラス張り構造について 明るく開放的で、省エネ性能の高い庁舎にするための設計

Q 結露で床が傷んだりしないの？

A Low-E複層ガラス（ペアガラス）を採用し、温度・湿度を集中管理することで結露を抑えます。湿度が高い場合でも管理システムで適切に対応します。

Q 冷暖房の光熱費がかさまない？

A Low-Eガラスや高断熱の壁、高効率空調機器、集中管理システムにより、光熱費の増加を抑える計画です。

Q 特殊なガラスで交換費用が高くないの？

A 窓で断熱性能を高めるだけではなく、長方形のガラスを連続して並べ、外側の壁で曲線を表現する設計です。使用するLow-Eのペアガラスは一般的な製品で、特別高価なものではありません。